

# 情欲の亡霊

オカルト

R-18







## 前書き

占術を通じて紅樓夢に並ぶ新刊を見たんだ  
そうしたらお菊さんの成年向け薄い本が  
一冊も無いのが惨めに見えてな  
仕方ないから自分で作ろうと思ったんだよ

村人も含めてメカクレばかりの本なので作成時は凄く楽でした  
(目と口だけ描いて微調整するタイプの人間)

あと擬音は菊にい様の菊屋素材集を使用しています  
ぶっちゃけコレがないと作れませんでした  
擬音って難しい



事の始まりは  
今日の朝――

オカルトでありながら  
怨霊としての性質もあるせいで  
まあ……そのつまり  
低級な色情霊に纏われて  
しまったのじゃ

はあ……  
それで結局  
頼み事ってのは  
もしかして

うむ お菊さんを  
抱いてやって欲しい

はい？

……えええッ！  
お俺がですか？

何を今更恥ずかし  
がつておる

私の勝負の  
最中もそつちばかり  
見とつたであらう  
バレバレだぞ  
!?

いやそれは  
否定しませんが  
いきなりそんな

たーのーむうー  
我も色々試したけど  
駄目だったのじゃ！  
もう普通に抱かせて  
追っ払うしかないのだ！

わわわ  
解りましたよ！

元の伝承から  
考えれば男なんて  
苦手そうだが……

色情霊と言ってたが  
体が火照って  
仕方ないのかな

恥ずかしがりつつも  
吐息や仕草がいやらしい

冷たいけど  
柔らかくて堪らん

最初は優しくとか  
考えてたけど  
こんな身体見せられたら

少し乱暴に  
揉んでも大丈夫かな











やべえ……  
搾り取られ……っ







入れるよ  
力抜いてね

ドキ  
ドキ

ぬるから

トロ  
オ...



奥までっ！



う...  
う...  
おおっ

ぬる



トロトロだね  
これなら  
一気に

ぬる



すちゅすちゅ

じゅん

あーん

すちゅすちゅ

ん

すちゅすちゅ

はーん

かっかっ

すちゅすちゅ

あーん

ん

あーん

すちゅすちゅ

すちゅすちゅ

あーん

あーん

入っ……たよ!





その後 —













頭が真っ白に  
なるまで延々と  
交わり続けた――

ぬさかめ



……が  
男の限界など  
関係無いようにで

お……お菊さん  
もう……無理……

焦らしてる  
ワケじゃなく

いやこれ以上やると  
ホント死ぬ……

……



でも本当に  
被えたんですか？

いえ  
いえ

おお綺麗に被えたぞ  
ああいうのは  
無理に引き剥がすのが  
面倒だな

感謝する

とんでもない  
こちらとしても  
役に立てたのなら  
光栄です

ぐっ  
たり

おーい

迎えに来たぞ  
ご苦労だったな

ガラッ



かああああ

……ああ  
それは単純にだな

いえ……  
朝起きてからもから  
昨日と同じように  
ねだられっぱなしで  
本当に身体が持たないというか

ん？  
我を疑っておるのか？



次は

こらいう

設定で

して欲しい?

(お菊さん…色々レベル  
高すぎないですか?)

## 奴隷市場プレイ

手枷と首輪で拘束された彼女の後ろに回り込み  
耳を甘噛みしながらそのふくよかな胸を驚掴みにした。

「んう……あっ！あっ…ふあっ」

最初はゆっくりと肌の感触を確かめ、徐々に手の動きを激しくする。

乳首も強めに摘まみ、クリクリと押しつぶす様に弄ぶ。

「あっ……ああっ……んっ……」

敏感な先端を少し乱暴に捻りあげると、お菊は喘ぎながら身をよじる。

しかしその様子は痛みから逃げようとするものではなく  
むしろ性的な興奮に悦びを覚えているようであった。

胸から手を離し、腹部を伝いながらゆっくりとお菊の秘所に触れる。

蜜は既に糸を引く程に溢れており、にちゃりと水音を立てた。

そのまま指先を軽く膣内に挿入し、乱暴にかき混ぜながら愛液で  
十分に濡らすと、その指をお菊の口に運び、強引に押し込んだ。

「んっ……ん……！んぐっ……ん……！はあ……！ん……ちゅぶ……」

十分に調教されているのだろう。嫌がる素振りも見せず  
必死に舌を動かしながら甘い吐息を漏らす。

「ちゅ……ん……！んっ……はあ……あっ…ん……っ」



強引に膣内に射精され、力尽きたようにぐったりと横たわる。  
収まりきらない程に吐き出された精液が、ヒクヒクと震える陰唇から  
溢れている。

「はあ……はあ……うっ……あああ……」  
茫然自失としている彼女を抱え起こし  
再度そそり立ったペニスを  
強引に口元へ押し当てる。

「……ん!? むぐっ! ぐっ……!」

そのままがっしりと頭を抱えると  
乱暴に抽挿を開始した。

「ふぐっ……んっ! むぐっ! っ……!

んぐっ! げほっ……うう……」

じゅぷっ! じゅぷっ! と淫らな音を  
立て、激しく口内を蹂躪する。

お菊の意識が飛びかける寸前

どろりとした苦い液体が  
吐き出された。

性欲処理玩具プレイ



「あぁっ♥ あー♥ あん！ひぁぁぁ♥ あぁ！」

膣奥に肉棒が叩きつけられる度、愛液を吹き出し悦びの声を上げる。

全身が痙攣し、頭は既に快楽を貪る事しか考えられなくなっていた。

喘ぎ声は悲鳴に近く、普段の彼女からは想像も出来ない程であった。

「あー！あー！あん♥ あん！ああん！んっ♥」

いくら射精しても肉棒は衰えを見せず、何度も何度も射精を繰り返す。

子宮内は既に白濁した欲望で満たされ、溢れ出した愛液と混ざり合い部屋中に淫らな匂いを漂わせている。

「んっ♥ んっ♥ あっ……！♥ あん！♥」

ピストンに合わせて膣壁は肉棒をキュッと締め上げ、次の射精を促す。

「あぁ！ふぁぁぁぁぁ！」

子宮口に肉棒が密着した瞬間、再び多量の精液を解き放つと同時に

ドクンドクンという肉棒の痙攣が伝わり、お菊も絶頂に達した。

始めてからどのくらいの時間が経過したのかすら判断がつかない。

「んふぁぁぁぁ……♥ あ……♥ ふぁえ……♥」

だらしなく開いた口からは精液が溢れ

くちゅりと淫らな音を立てる。

肉棒を咥え込んだ蜜壺は度重なる快楽の波にも満足することはなく、朝日が昇り始めるまで男の精を貪り続けた。

朝まで子作りSEXプレイ





■奥付■

発行者: 荒野 沖(ふらふらトキシム)

発行日: 2016/10/9(日)(東方紅楼夢12)

印刷: 株式会社ポプルス

連絡先: <http://www.pixiv.net/member.php?id=12135>

mail: rightax@hotmail.com

(hotmailの方はほぼ見てないので連絡希望の方は

pixivのメッセージ推奨)

原作: 東方project

無断複製・無断アップロード: ご自由に

あとがき

「この娘エロいな。エロ絵描いたろ」  
と思って描き続けてたら  
描いてるのが自分しかいませんでした。  
あるある。

半年位したらpixivに全部うpります。

荒野 沖





Touhou Project Fanbook  
For adult only  
2016/10/9 東方紅樓夢